薬剤情報

2026-8月　No.40

1．採用薬品情報（2026/8/3　薬事審議会）

1）新規採用薬剤

①イブグリース皮下注２５０ｍｇオートインジェクター
薬価：¥50782.0
【薬効分類】抗ヒトIL-1モノクローナル抗体製剤
【用法・用量】
通常、成人及び１２歳以上かつ体重４０ｋｇ以上の小児には、レブリキズマブ（遺伝子組換え）として初回及び２週間後に１回５００ｍｇ、４週以降、１回２５０ｍｇを２週間隔で皮下投与する。なお、患者の状態に応じて、４週以降、１回２５０ｍを４週間隔で皮下投与することができる。

②イミグランキット皮下注３ｍｇ
薬価：¥1397.0
【薬効分類】５-ＨＴ1Ｂ/1Ｄ受容体作動型治療薬
【用法・用量】
片頭痛及び群発頭痛発作の頭痛発現時に、通常、成人にはスマトリプタンとして１回３ｍｇを皮下投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし１回３ｍｇ、１日６ｍを超えないこと。

③オムジャラ錠　（院外処方専用）
薬価：１００ｍｇ：¥21,214　１５０ｍｇ：¥31,821　２００ｍｇ：¥42,428
【薬効分類】ヤヌスキナーゼ（ＪＡＫ）/アクチビンＡ受容体１型（ＡＣＶＲ１）阻害剤
【用法・用量】
骨髄線維症の患者に対して、通常、成人にはモメロチニブとして２００ｍｇを１日１回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。

④タスフィゴ錠３５ｍｇ　（院外処方専用）
薬価：¥15378.70
【薬効分類】抗悪性腫瘍剤/ＦＧＦＲ阻害剤
【用法・用量】
がん化学療法後に増悪したＦＧＦＲ２融合遺伝子陽性の治療切除不能な胆道癌患者に対して、通常、成人にはタスルグラチニブとして１日１回１４０ｍｇを空腹時に経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。

2）メーカー変更薬剤（後発品、バイオシミラーなど）

・献血グロベニン-I静注（グロベニンーＩ１０％静注から変更）
・生理食塩液バッグAirlessタイプ（カーミパック生理食塩液Lから変更）

3）削除品目

・ウレパールローション（薬価収載２０２７年３月まで）
・カーミパック生理食塩液L（生理食塩液バッグAirlessタイプ採用のため）
・グロベニンーＩ１０％静注（献血グロベニン-I静注採用のため）
・ナボールSRカプセル３７．５（使用量が少ないため）
・リシノプリル錠（院内在庫消耗後採用中止）

2．新規 院外処方薬（院外処方箋でのみ処方可）

- チアトンカプセル5ｍｇ
- オムジャラ錠100mg、150mg、200mg
- ラゲブリオ錠400mg
- パルミコート100μｇタービュ112
- クロベタゾールプロピオン酸エステルクリーム

3．医薬品安全性情報

●フィアスプ注 100 単位/mL

改訂理由：

高温下でポータブルインスリン用輸液ポンプを用いて本剤を投与したところ、本剤のゲル化によりポンプの内部に閉塞が生じ、本剤が適切に投与されなかったことが原因と考えられる重篤な高血糖及び糖尿病性ケトアシドーシスが報告されたため。

改定内容：

販売名（会社名）	フィアスプ注100単位/mL（ノボ ノルディスク ファーマ株式会社）
薬効分類等	その他のホルモン剤
効能又は効果	インスリン療法が適応となる糖尿病

《**使用上の注意**（下線部追加改訂部分）》

8. 重要な基本的注意（新設）：本剤は37℃を超える高温でゲル化するおそれがある。ポータブルインスリン用輸液ポンプを用いる場合，高温下ではゲル化によりインスリンポンプの内部に閉塞が生じ，本剤が適切に投与されないことによる重篤な高血糖，糖尿病性ケトアシドーシス等が発現することがあるため，以下の点に注意するよう患者に指導すること。
・37℃を超える高温環境下を避けて使用すること。
・インスリンポンプの内部を確認し，注射液の外観に変化がみられた場合は使用しないこと。

〈参　　考〉：販売開始：フィアスプ注100単位/mL：2020年２月

4．添付文書改訂情報

①エソメプラゾールマグネシウム水和物　②オメプラゾール　③ボノプラザンフマル酸塩 ④ラベプラゾールナトリウム　⑤ランソプラゾール（経口剤）

改訂理由：

低マグネシウム血症関連事象を評価し、症例の因果関係評価及び使用上の注意の改訂要否について、専門委員の意見も聴取した結果、プロトンポンプインヒビター含有製剤と低マグネシウム血症との因果関係が否定できない症例が集積したため。

改定内容：

【薬効分類】２３２　消化性潰瘍用剤
【医薬品名】エソメプラゾールマグネシウム水和物
オメプラゾール
ボノプラザンフマル酸塩
ラベプラゾールナトリウム
ランソプラゾール（経口剤）
【措置内容】以下のように使用上の注意を改めること。

下線は変更箇所

現行	改訂案
8. 重要な基本的注意 （新設）	8. 重要な基本的注意 本剤の長期投与により低マグネシウム血症があらわれることがあるので、本剤を長期投与する際は、定期的に血中マグネシウム濃度を測定すること。
11. 副作用 11.1 重大な副作用 （新設）	11. 副作用 11.1 重大な副作用 低マグネシウム血症 本剤の長期投与により、QT延長、痙攣、しびれ等を伴う低マグネシウム血症があらわれることがある。また、低マグネシウム血症に起因した低カルシウム血症、低カリウム血症等の電解質異常を伴う場合がある。これらの電解質異常が疑われる症状があらわれ

	た場合には、血中マグネシウム濃度の測定を行い、異常が認められた場合は、マグネシウムの補充等の適切な処置を行うこと。